



第6回食の新潟国際賞 選考経緯と受賞者コメント



選考委員会での選考経緯と意見

第6回食の新潟国際賞

選考委員長 唐木 英明 氏

公益財団法人 食の安全・安心財団 理事長
公益財団法人 食の新潟国際賞財団 評議員

食の新潟国際賞の最高賞である大賞は創設の趣旨でもある「食と命」、「世界が抱える食の問題に向き合い、命の尊厳を守る」というテーマにおいて、研究や活動が世界の食の課題の解決に多大な貢献をされた個人または団体に授与するものです。

第6回大賞は中村 哲・ペシャワール会・PMS(平和医療団・日本)が受賞されました。

ご存じのように中村 哲氏はアフガニスタンでの内戦と大干ばつの二重苦にあった難民を救うため、「医療だけでは人は救えない、水と食があれば人は生きてゆける」との考えから、医療活動から「緑の大地計画」を実践し、用水路と灌漑施設の整備により、現地住民の飢餓と貧困からの脱却と農民の定着と生活向上に大きく貢献されました。その活動と功績は現地アフガニスタンの方々のみならず、日本をはじめ世界の多くの方々から称賛されていることはご承知の通りです。中村 哲氏は残念ながら昨年12月、現地アフガニスタンで殉職されましたが、今回の大賞は中村 哲氏の功績を讃えるとともに、中村 哲氏の残した活動の継続を強く支援するために「ペシャワール会」及び現地で活動するPMS「平和医療団・日本」に対し、大賞を贈呈することになりました。

佐野藤三郎特別賞は、世界や地域において顕著な実績を上げた国際協力や研究活動に対し贈呈されるもので、大坪研一氏が受賞されました。大坪氏のコメに関する研究活動とその成果は、地元新潟はもとより国際的にも高い評価を得ており、コメ分野でのアジアを代表する第一人者であることが受賞理由です。その研究成果は広く食品加工や農業・流通分野で実用化されており、食品産業や農業の発展に貢献し、特に中国をはじめ東南アジア各国の研究者との学術や現地交流にも尽力されておられ、佐野藤三郎特別賞にふさわしい方です。

21世紀希望賞は、研究や活動が、特に将来的に世界貢献への可能性と実現性を有する研究や活動を表彰するもので、今回は矢野裕之氏が受賞されました。矢野氏は米を基本材料として米粉パンの製造技術を確認し、ブームとなったホームベーカリーの普及やパンの製品化を実現した方です。コメを主食であるパンの製造に応用したことは、欧米に多い小麦粉アレルギーやセリアック病患者にも恩恵をもたらし、世界的規模での持続可能な農業や食品産業の発展に大きく貢献し、それが評価されました。

ご承知の通り、新潟県は食品産業や農業において、国内でもトップレベルの食品メーカーが存在し農業生産地でもあります。地域未来賞はその優れた技術や研究などをもっと国内外に発信し、新潟県内産業の発展に寄与する目的で、新潟県内在住の人・団体を対象として第6回の今回から創設した賞です。その候補者は大変多彩で、新潟にふさわしい実績ある方々が推薦されました。選考に当たっては新潟県内の2名の委員から適切かつ示唆ある御意見をいただきました。そして今回はその中から江川和徳氏が受賞されました。江川氏は長年にわたり新潟のコメを主原料とする加工製品の開発技術や製品化において尽力してきました。新潟がコメ加工品、包装餅などの分野で国内トップランナーの地位を築いた実績面での江川氏の功績は大変大きいこと。加えて、現在も現役で食品加工の技術開発の先頭に立ち、食品メーカーや研究機関との橋渡しや共同開発を進めており、今後もその成果を期待できることが高く評価されました。

第6回食の新潟国際賞 選考経緯と受賞者コメント

○大賞 中村哲・ペシャワール会・PMS

受賞理由:

アフガニスタンの大干ばつと内戦による難民の餓死を救うため、緑の耕作地を蘇らせる用水路を建設し食糧生産と農業復興を進め、農民の定住と飢餓と貧困からの脱却など、多くの功績を残し殉職した中村氏の崇高な活動を讃えて、ペシャワール会の活動の継続を強く支援する。

「食の新潟国際賞 大賞を受賞して」

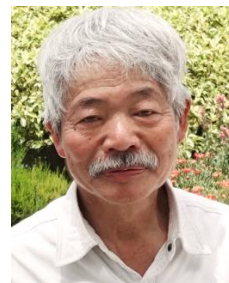
村上 優 氏

(ペシャワール会 会長 /

PMS(Peace (Japan) Medical Services) 総院長)



村上 優 氏



中村 哲 氏

食の新潟国際賞大賞を授かりました。医師である中村が農業、食の分野で榮譽を讃えていただくことを本当に喜んでと思います。まさしくこの20年間は医療よりも農業の成立に身を捧げ、平和に家族と暮らすことができる世界を目指していたからです。

中村哲医師が当時のパキスタン北西辺境州ペシャワールで医療活動を始めたのは1984年の事でした。ペシャワール会は中村哲医師を支えて36年が過ぎます。「一隅を照らす」と彼の地に留まり続けました。ハンセン病撲滅計画の一翼を担い、貧しい地域での医療活動から人々の命を支える活動へ広がるには大きな転機がありました。その一つが世界の争いの縮図のように続いた戦火であり、また2000年から始まる大干ばつ、それは世界の温暖化による自然崩壊が最も弱い立場の人々に降りかかり、多くの飢餓状態から餓死者がでることが予測されました。薬よりも1本の井戸を、さらには生きる術は食料の供給、すなわち農業の回復であると灌漑水路建設が始まりました。結果として2019年までにクナル川周辺の1万6千ヘクタールの耕地、65万人の生活を支える用水路網ができました。日本では江戸時代に確立された優れて地域性の濃い技術をPMS方式として現地に適して完成させ、今ではアフガニスタン復興は農業からと国を挙げて注目を集めるまでになりました。

中村先生の尊い犠牲は、改めてアフガニスタンだけでなく、貧困や飢え、困難な中で自立して生きていく人々に、当たり前のようにして手を差し伸べる大切さ、それを実行する人の尊さを世界に思いこさせました。

「緑の大地計画」は続きます。すでに絶え間なく水を供給して人々の生活を支えている用水路も、繰り返して手を加えなければ安定しません。また新たに伝統的工法を取りこんだPMS方式の取水口や用水路は広がりを見せていますが、まだ道半ばです。手掛けていた教科書ともなる「緑の大地計画」ガイドラインを完成させ、新たな灌漑事業、農業の復興モデルを広げていく礎を築かねばなりません。



第6回食の新潟国際賞 選考経緯と受賞者コメント

○佐野藤三郎特別賞 大坪 研一 氏

新潟大学 自然科学系フェロー / 新潟薬科大学 特任教授

受賞理由:

永年にわたるコメの品質・利用研究分野でのコメの①食味評価②DNA品種評価③コメの機能性など多くの研究や加工利用技術分野におけるアジアの第一人者であり、国際研究交流などその普及に大きな功績をあげている。



「食の新潟国際賞佐野藤三郎特別賞を受賞して」

この度、栄えある食の新潟国際賞の佐野藤三郎特別賞を授賞下さりまして、関係の皆様に対し、心より感謝申し上げます。芦沼と呼ばれた亀田郷を現在の美田に改良され、遠く中国三江平原にまで広大な水田の礎を築かれた佐野藤三郎先生のお名前を冠した賞を頂きまして、喜びに堪えません。

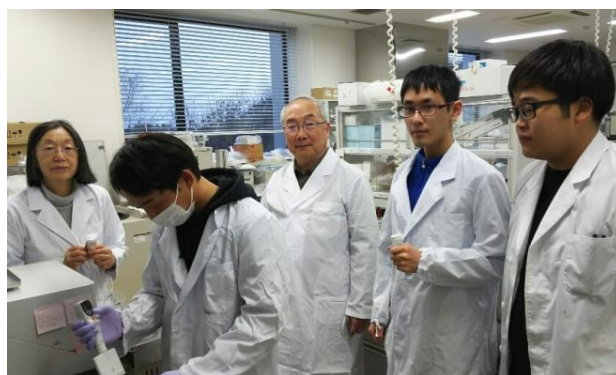
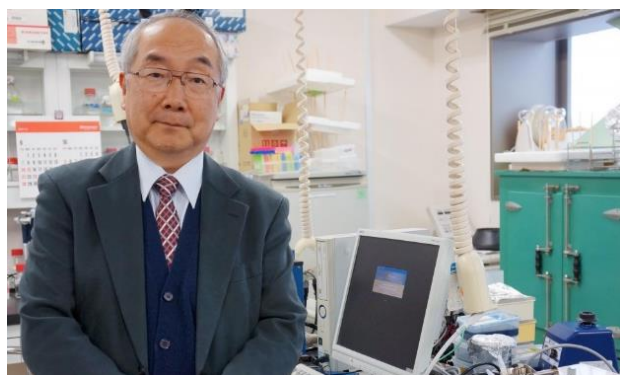
私は、農水省食品総合研究所、新潟大学および新潟薬科大学において、米の食味評価、PCR法による米のDNA品種・産地判別技術、機能性米加工食品の開発などに取り組んできました。新潟県作物研究センターの皆様とのコシヒカリの良食味系譜や他県産コシヒカリとの判別技術の開発などの共同研究は特に印象に残っています。

これまでに、国際稲研究所、米国農務省研究所等と共同研究を行い、JICAや国連大学を通じて、各国の研修生を受け入れたり、在外協力員として派遣されたりしてきました。最近は、中国黒龍江省農業科学院、タイや台湾の大学、韓国の農業センター等との交流が増えています。

新潟の各地域との産学連携事業、県産新品種「新之助」の食味特性の評価、米粉の用途開発や、新潟市食文化の推進、食の新潟国際賞財団など、様々な分野で、新潟地域の皆様とご一緒させて頂きました。特に、食の新潟国際賞財団の訪中団に3回参加し、佐野藤三郎先生のご業績を直に拝見し、訪中団に対する中国側の誠意あふれる対応に、中山先生始め、関係の皆様が研修生のご指導等の人的交流を継続してこられた歴史の重みを感じました。

今後は、この受賞を契機として、米に関する研究開発を続けるとともに、食の新潟国際賞財団等の事業に関わらせて頂く中で、佐野先生のご業績を若い世代に伝え続け、海外との技術交流や人的交流の推進に少しでもお役に立てればと思っています。

最後になりましたが、受賞に際し、古泉ファウンダー、池田理事長始め財団の皆様、唐木委員長始め、選考委員の皆様、推薦頂きました学長先生始め新潟大学の皆様、日本応用糖質学会の皆様、中村澄子准教授を始めとする多くの共同研究者の皆様にご心より御礼申し上げます。



第6回食の新潟国際賞 選考経緯と受賞者コメント

○21世紀希望賞 矢野 裕之 氏

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

食品研究部門 食品加工流通研究領域 食品素材開発ユニット・ユニット長

受賞理由:

米粉パンの製造技術を開発し、一般消費者の米粉・ホームベーカリー機器を実用化し、国内外に広く普及させた。この技術は小麦アレルギー持つ人たちにも恩恵を与え、SDGs「すべての人に健康と福祉」の目標にも貢献する。



「21世紀希望賞を受賞して」

この度は名誉ある賞をいただくことができ本当にうれしく思います。私にとって新潟はコメの研究を始めた土地です。大雪と格闘しながら子育ても楽しんだ思い出の場所で受賞式に臨めることは万感の思いです。

私が勤務する農研機構は、我が国の農業と食品産業の発展のため、基礎から応用まで幅広い分野で研究開発を行う機関です。基盤研究で論文を書くだけでなく、開発した技術を世の中の役に立つ食品として実用化するまで、これからも責任をもって研究に取り組みたいと思います。今回の受賞はそのための大きな励みになります。本当にありがとうございました。

直近の10年間はグルテンや増粘剤を使用しないパンの製造技術の開発に取り組みました。毎日毎日パン作りに試行錯誤し、時には重要なアイデアを提供くださった契約職員の方々のおかげで、ペしゃんこだったパンが再現性よく膨らむようになりました。この技術の特許出願し、いくつかの食品関連企業に売り込みました。タイガー魔法瓶株式会社、株式会社ナチュラルフードは熱意をもって対応くださり、ホームベーカリーとパンの製品化に至りました。自慢できる素晴らしい商品です。また、広島大学と共同でこのパンが膨らむメカニズムについて共同研究を行いました。この産・学・官連携研究の全過程にわたって、農研機構の諸先輩方に暖かくご指導いただきました。

今、受賞にあたって当時を振り返ると、本当に多くの方々にお世話になったことを再認識いたします。基礎研究とその実用化の間には「死の谷」があるといわれます。これを一緒に飛び越えてくださった方々を思い、感謝の気持ちで胸が熱くなります。ありがとうございます。



第6回食の新潟国際賞 選考経緯と受賞者コメント

○地域未来賞 江川 和徳 氏

江川技術士事務所(農業部門) 所長

元新潟県農業総合研究所 食品研究センター長



受賞理由:

新潟県の食品加工技術の向上と加工食品の開発と製品化の第一人者である。特にコメ加工食品の低たんぱく質米飯や無菌化包装、餅やトレイ炊飯などの包装米飯の開発を全国一のレベルと規模に押し上げた功績は大きい。

「地域未来賞を受賞して」

・受賞の喜びと今後の抱負

過日、食の新潟国際賞財団より電話をいただき国際賞の今年より新設の地域未来賞に内定したとの連絡をいただいた。最初何のことか分からずぼかんとした状態で、キツネにつままれた感じであったが、まことに光栄なことと喜びをお伝えした。今後、食の未来賞に恥じないように県農業・食品産業の発展に取り組んでゆきたいと今思いを新たにしている。

・これまでの研究を振り返り

食研退職後、座右の書としている元食研所長 故斎藤昭三氏の一筋の道に記されている21世紀の新潟のあべき姿に資せるよう努めてきた。農工連携による新しい産業の道につながる取り組みとして食と健康をめざした。斎藤の教えの「魂は硬く、心は柔軟に」を胸に新潟から脳血管障害と胃がんをなくす食として今農産物の酢酸発酵利用に力を入れている。今後はユネスコ文化遺産の和食の原点、郷土食を新しい健康食として復活し新潟に健康食インバウンドをすすめる、農工連携、大小規模の多様な存続を可能とした消費者も最小支出で最大幸福の得られる、新しい時代の新潟の食の在り方を模索してゆきたいと思っている。



● 特別会員

亀田製菓(株)	(株)ブルボン	(学)新潟総合学園
一正蒲鉾(株)	サトウ食品(株)	新潟県農業協同組合中央会
(株)第四銀行	(株)栗山米菓	亀田郷土地改良区
(株)新潟日報社	(株)新宣	(株)エイケイ
亀田商工会議所	(株)新潟クボタ	NST新潟総合テレビ
にいがた22の会	(株)日本食糧新聞社	ホテル日航新潟
五十嵐建設工業(株)		

● 正会員

新潟市農業協同組合	月島食品工業(株)	セツツカートン(株)新潟工場
新潟県信用組合	日本製粉(株)関東支店	東邦産業(株)
(株)第一印刷所	日本甜菜製糖(株)	麒麟山酒造(株)
(株)本間組	(株)鳥梅	(株)加島屋
石本酒造(株)	新潟工科大学産学交流会	(株)日本フードリンク
(株)ミカサ	(株)キタック	(株)アド・メディック
神山物産(株)	北越工業(株)	UX新潟テレビ21
ハセガワ化成工業(株)	丸榮製粉(株)	イカリ消毒(株)
藤屋段ボール(株)	新潟万代島総合企画(株)	新潟工科大学
(株)タケショー	鍋林(株)ヘルスフーズ事業部	(株)日本旅行新潟支店
(株)新潟博報堂	TeNYテレビ新潟放送網	(株)田中組
BSN新潟放送	(株)栗田工務店	(医)愛仁会 亀田第一病院
新潟陸運(株)	三和薬品(株)	(株)ひらせいホームセンター
(株)新潟食品運輸	松田産業(株)	

● 個人会員

藤島 安之	和田 充彦	井田 増夫	古泉 肇	高畑 昭文	廣瀬 利雄	山口 勉	木村 真教
君塚 毅	宗像 寛明	高橋 常考	田村 敏郎	杉本 克己	近藤 鴻	佐藤 珠美	大坪 守
大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	古口 日出男	坂田 武利	門脇 基二	佐藤 久栄	大谷 勝男
田中 敏明	青木 清	阿部 徳威	佐藤 勉	佐藤 清一	野上 文彰	板井 茂	浅井 善広
佐野 正人	田中 作一	新保 房機	古泉 榮三	今泉 昇	佐藤 純	倉嶋 則昭	塚本 太一
大越 斎	野口 正晴	酒井 定勝	加藤 洋介	長谷川 宏志	齋藤 秀明	松本 裕志	當野 篤
高山 利夫	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修	望月 健三郎	山田 雄治	長谷部 一裕
鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一	渡邊 信也	丸山 美由紀
井浦 康晴	宇野 勝雄	赤塚 義廣	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子
齋藤 博文	齋藤 幸広	田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	中村 好彦	栗田 浩	栗田 朋子
阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊	久代 勝英	古泉 幸一	加藤 純子	松島 謙介	高倉 広利
清水 泰成	中野 節子	宮口 澄子					

食の新潟応援団(賛助会)募集中!

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。

食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し 応援してくださる皆様を募集しています。

詳しくはホームページをご覧ください。 ホームページ <http://www.niigata-award.jp/>